



地域医療の最前線へ

～帝京大学福岡キャンパス開校～

連載
おおむた自慢



「自分流」を探し求め、実学、国際性、開放性と3つの教育指針を掲げる帝京大学グループ。1987年、大牟田市新勝立町に九州帝京短期大学が開学し27年目の春、有明海を臨む岬町に帝京大学福岡キャンパスとして新たなスタートを切られました。

国内最先端の設備を誇る福岡キャンパスは地上5階、延べ床面積約二万平方メートル。医療現場に即した設備が整えられ、変化する医療政策や進化する医療技術の習得に対応可能な最新式の機器も多数導入されています。



最先端の設備を誇る実習室

3月28日に行われた福岡キャンパス落成式であいさつに立った、沖永佳史理事長・学長が故・沖永荘一学長の著書「ひたすらの道～私と帝京の半世紀～」を引用し大牟田市と帝京大学の関わりを紹介。「九州からの招待状」という項目で『私の教育関係、さらには大学

の先輩、同級生の紹介で、九州、福岡県大牟田市から市会議員の一行が上京してきたのである。自民党から共産党まで“呉越同舟”の珍しい調査団で「大牟田に短大をつくってもらえないものだろうか」ということだった。よくよく話を聞いてみると、大牟田市議会が全会一致で誘致を決めたもので～略～。大牟田の現地を調べた結果、私は「誘致に応える」ことを決めた』と開校に至るまでの経過が記されていました。

九州での新しい一歩として、1987年開学した九州帝京短期大学はその後、1999年、帝京大学福岡短期大学に改称。2002年、敷地内に帝京大学福岡医療技術専門学校を設置し2005年には帝京大学に福岡医療技術学部理学療法学科、作業療法学科を設置。今春、福岡キャンパスが新築移転され、新たに看護学科、診療放射線学科が加わりました。

理学療法学科

身体機能を取り戻すためにあらゆる治療法を実践し、保健、福祉、介護、スポーツなど幅広い分野のニーズに応える理学療法士を養成。

作業療法学科

広い視野を持つために現場や先

進地で学び、自分らしい生活の再建を温かく支援する作業療法士を育てる。

看護学科

主体的に考え、行動し学ぶ機会を設け、高い職業意識と広い視野を持った行動する看護のプロを養成。

診療放射線学科

高い倫理観と豊かな人間性を身につけ先端医療を現場でリードする放射線技師を育てる。

帝京大学は、高齢化対策の取り組みとして先進地域である大牟田市で医療を学ぶことが、学生にとって、「地域や医療の現場ではないが求められているのか、なにをすべきなのか」を現実に即して考える貴重な機会として、非常に意味が大きいと考えておられます。

ここで学ぶ学生が、将来社会で活躍し地域医療を支えていくことを期待したいと思います。



ありあけスクエア

編集後記

新年度に入り、新たな生活にチャレンジしている方も多いかと思います。本号でも新しく誕生した帝京大学の話題を取り上げています。何かと変化の多い時代ですが、時には立ち止まって周りを見渡し、確認することも大切ですね。これからも皆様の期待にお応えできる紙面づくりに邁進してまいります。よろしくお願いたします。(T)

■編集 議会報編集委員会

【委員長】吉田康孝 【副委員長】北岡あや

【委員】大野哲也 平嶋慶二 森 竜子

■発行 大牟田市議会

〒836-8666 福岡県大牟田市有明町2丁目3番地

TEL 0944-41-2800 FAX 0944-41-2880

E-mail gikajimu01@city.omuta.lg.jp